JUMP UP 3

TOYO Shutter

2014年3月期第2四半期
決算説明資料

東洋シヤッター株式会社

私たちは企業品質の向上を目指し、
安全・安心・快適・感動を提供するとともに
社会の進歩発展に貢献します

2013年12月6日

目　次

2014年3月期第2四半期　決算概況　P3
- 経営環境　P4・5
- 決算概要　P6
- 収益性分析　P7～10
- 製品別売上明細・受注実績　P11～15
- メンテサービス事業の状況　P16
- キャッシュ・フロー計算書　P17

2014年3月期　業績見通し　P18
- 連結業績推移　P19
- 業績計画（売上内訳）　P20
- 設備投資・減価償却費　P21
- 配当について　P22

今後の展望　P23
- 中長期的な事業環境　P24
- 新中期経営計画『JUMP UP 3』　P25～28
- 独ハーマングループとの提携　P29～30

参考資料　P31
（東洋シヤッターについて）　～33

2014年3月期第2四半期　決算概況

2014年3月期第2四半期　経営環境と施策

回復基調にある国内経済環境

持ち直しつつある建築関連投資

非住宅着工床面積は穏やかな回復基調にあり、
シャッター市場にも影響が表れてきている

激しい受注価格競争は変わらず

利益向上を目指した営業活動で収益を確保

2014年3月期第2四半期　経営環境

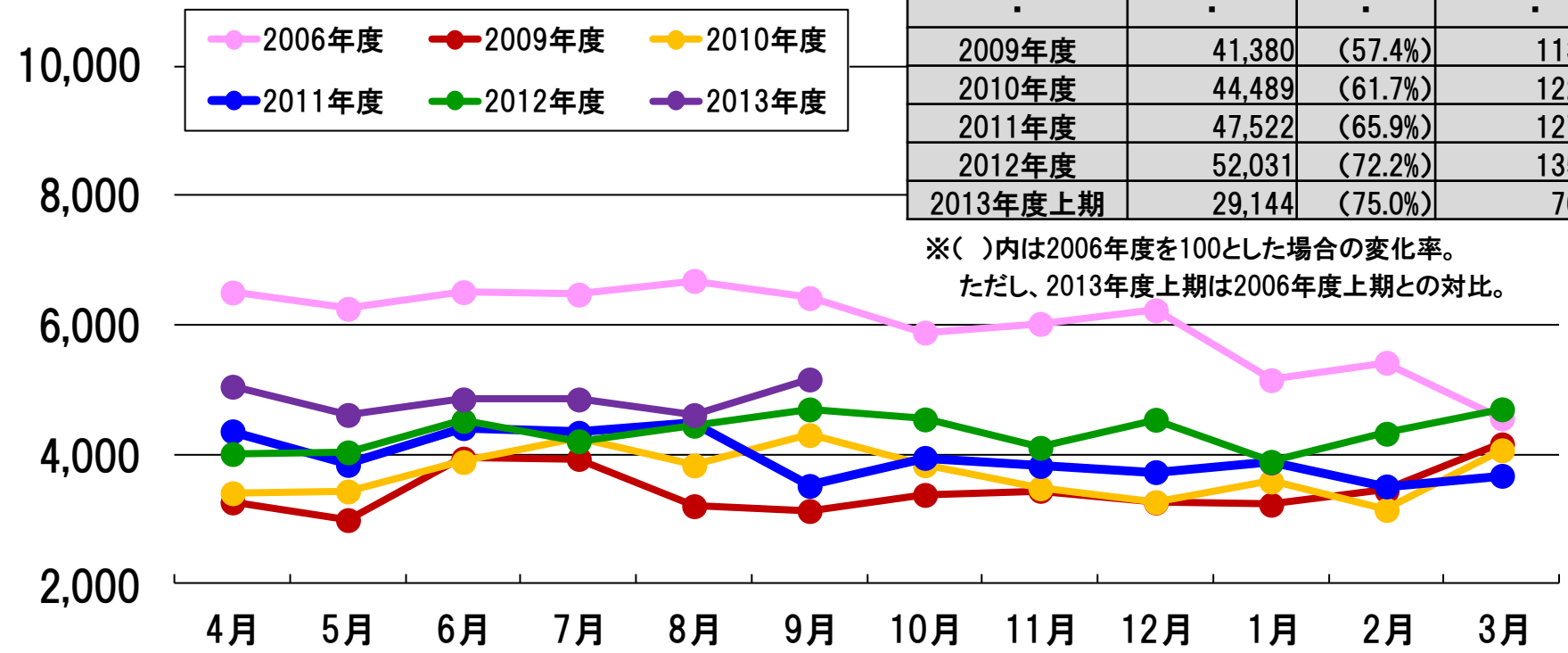
2009年をボトムに緩やかに回復傾向

非住宅着工床面積実績

（単位：千㎡）

	非住宅着工床面積		全建築物着工床面積
2006年度	72,114	(100.0%)	187,614
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
2009年度	41,380	(57.4%)	113,196
2010年度	44,489	(61.7%)	122,283
2011年度	47,522	(65.9%)	127,292
2012年度	52,031	(72.2%)	135,454
2013年度上期	29,144	(75.0%)	76,339

※(　)内は2006年度を100とした場合の変化率。
ただし、2013年度上期は2006年度上期との対比。



国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

2014年3月期第2四半期　決算概要

①売上高　　：　積極的な営業活動の展開による受注確保によって、
計画を若干上回る
②営業利益　　：　原価低減等の効果により、計画を20.9%上回り、
前年同期比では61.8%増
③当期純利益　：　計画を7.5%上回り、前年同期比では38.6%増

（百万円）

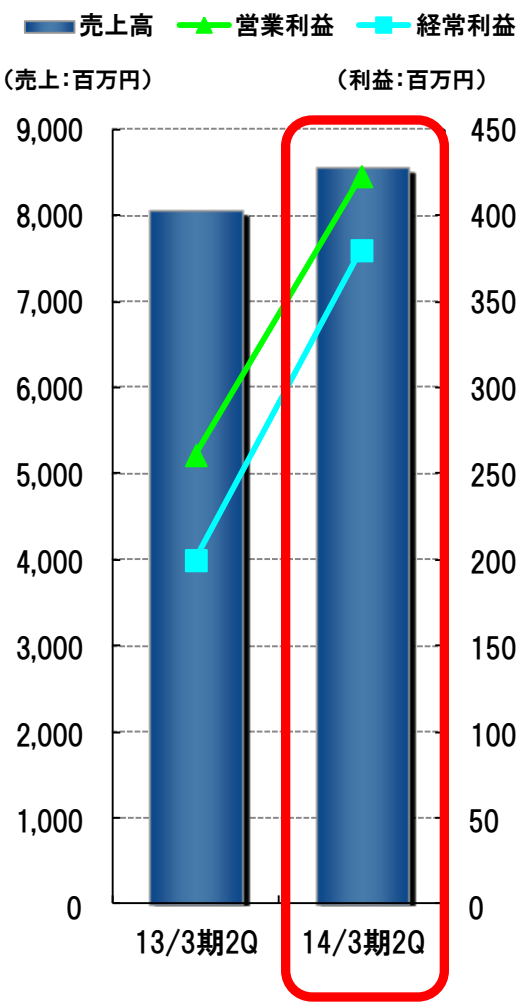
	13/3期2Q	14/3期2Q	期初計画
売　上　高	8,057	8,548	8,500
営　業　利　益	261	423	350
四半期純利益	155	215	200

2014年3月期第2四半期　収益性分析

売上増加と収益性の改善により前年同期比で利益が伸びる

（単位：百万円）

	13/3期 2Q	14/3期2Q 期初計画	14/3期 2Q	前期比 増減率
売上高	8,057	8,500	8,548	6.1%
売上原価	6,063	―	6,276	3.5%
売上総利益	1,994	―	2,272	14.0%
売上総利益率	24.8%	―	26.6%	―
販売管理費	1,732	―	1,848	6.7%
営業利益	261	350	423	61.8%
営業利益率	3.3%	4.1%	4.9%	―
経常利益	200	280	380	89.9%
四半期純利益	155	200	215	38.6%
減価償却費	151	―	150	△0.6%



2014年3月期第2四半期　収益性分析
収益性改善の取り組み

TOYO Shutter

① 安定的な生産量の確保

② 「メンテサービス」の強化・拡大

③ 採算管理の強化

④ 業務効率化による少数精鋭体制確立

2014年3月期第2四半期決算　収益性分析
収益性改善の成果

TOYO Shutter

営業利益は各四半期において前年同期比増加を継続中

（単位：百万円）

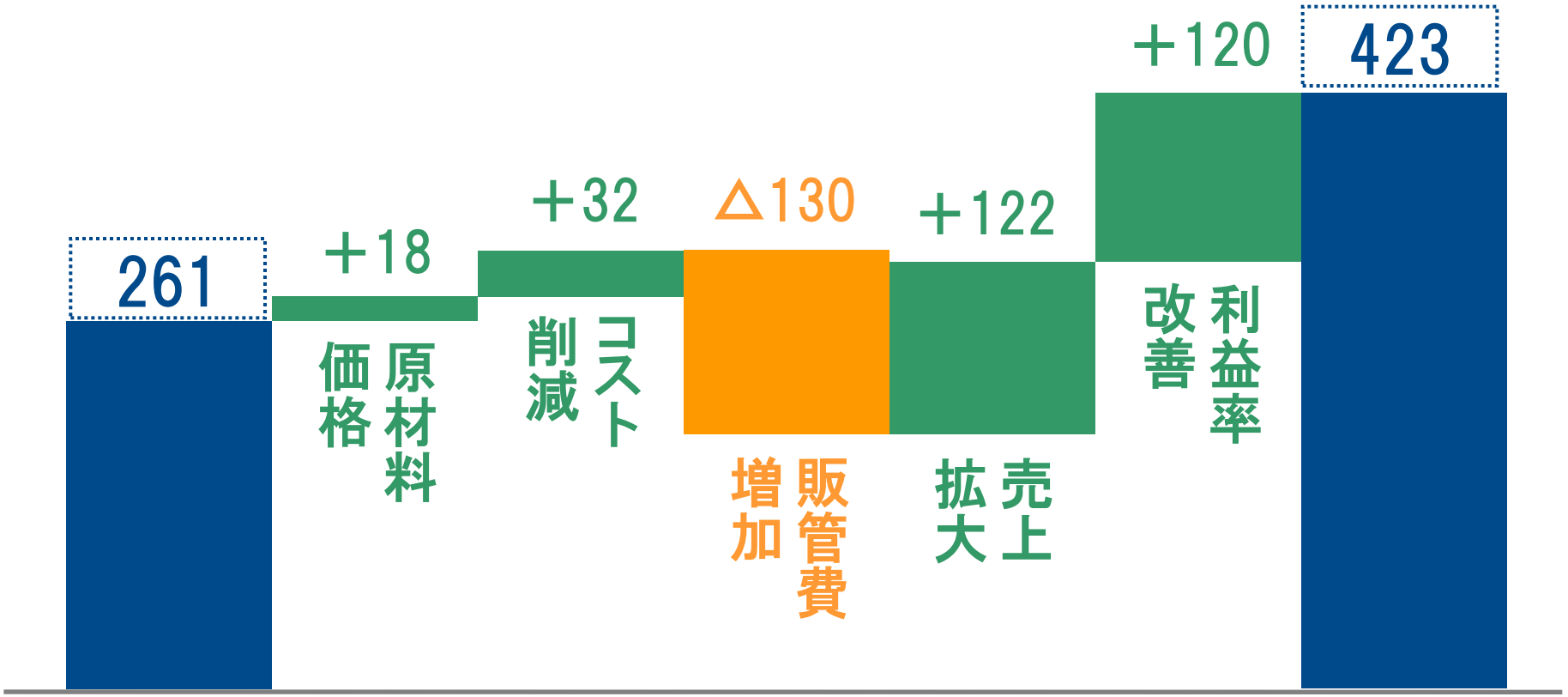
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計
売上高	2011/3	3,227	3,795	3,909	4,578	15,509
	2012/3	3,613	4,084	4,472	5,103	17,272
	2013/3	3,828	4,229	4,433	5,033	17,524
	2014/3	**4,078**	**4,470**			
営業利益	2011/3	△206	7	77	4	△118
	2012/3	△31	140	145	167	421
	2013/3	97	164	185	276	722
	2014/3	**197**	**226**			

2014年3月期第2四半期　収益性分析
営業利益増減要因

TOYO Shutter

営業利益は前年同期比約1.5倍超の増加

（単位：百万円）

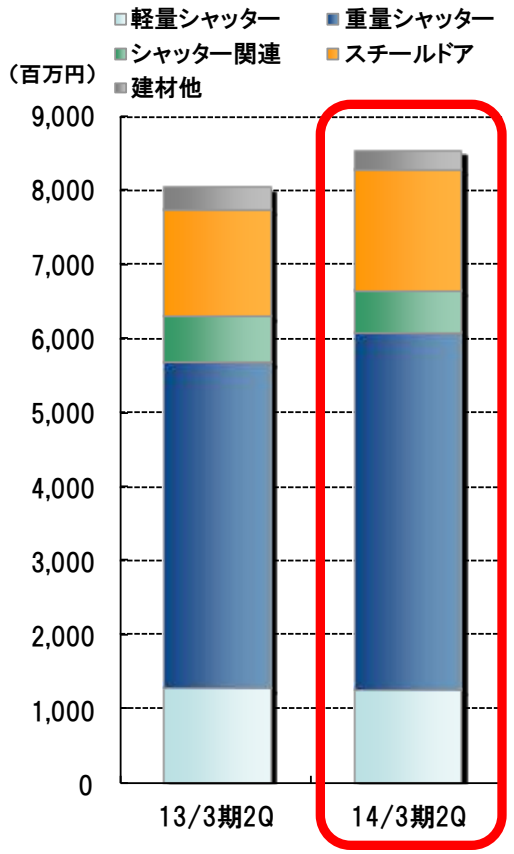


製品別売上明細

重量シャッターとスチールドアが好調

（単位：百万円）

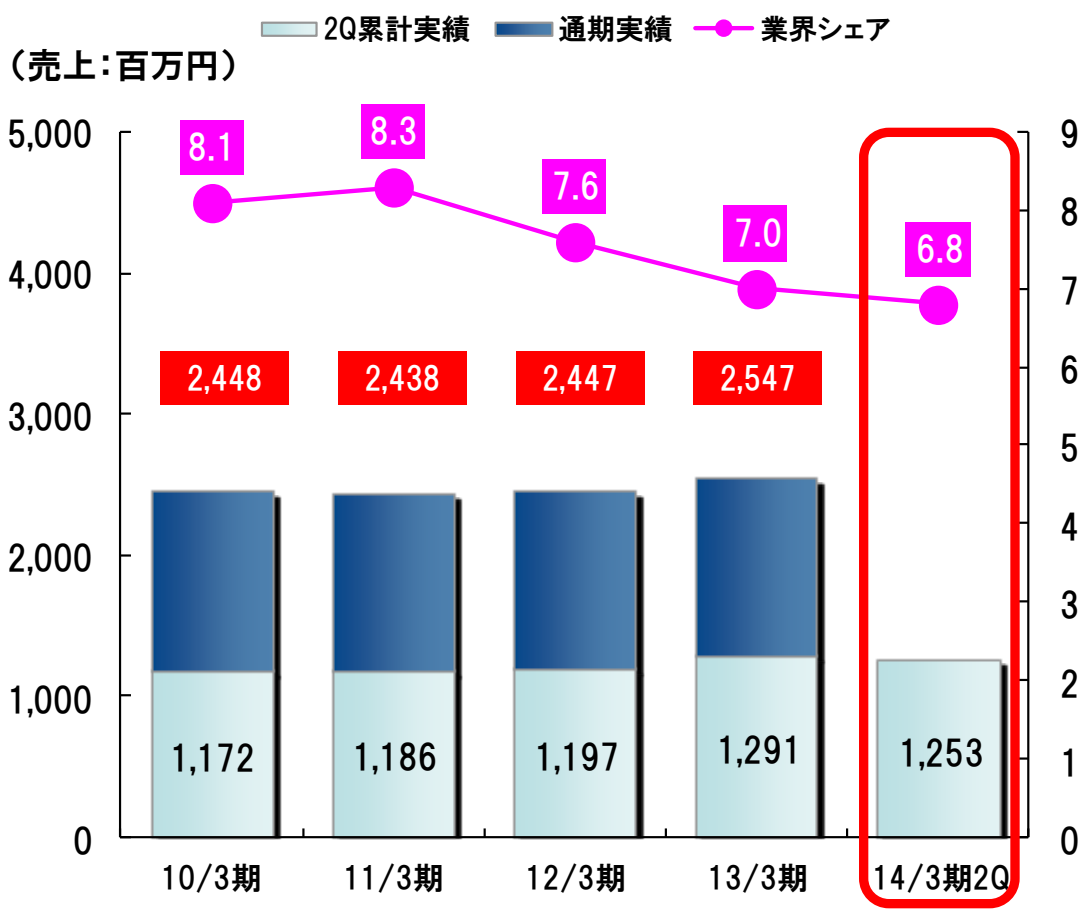
	13/3期 2Q	構成比 (%)	14/3期 2Q	構成比 (%)	前期比
軽量シャッター	1,291	16.0	1,253	14.7%	△2.9%
重量シャッター	4,401	54.6	4,840	56.6%	10.0%
シャッター関連	621	7.7	562	6.6%	△9.5%
スチールドア	1,438	17.9	1,651	19.3%	14.8%
建　材　他	304	3.8	240	2.8%	△21.0%
合　計	8,057	100.0	8,548	100.0%	6.1%



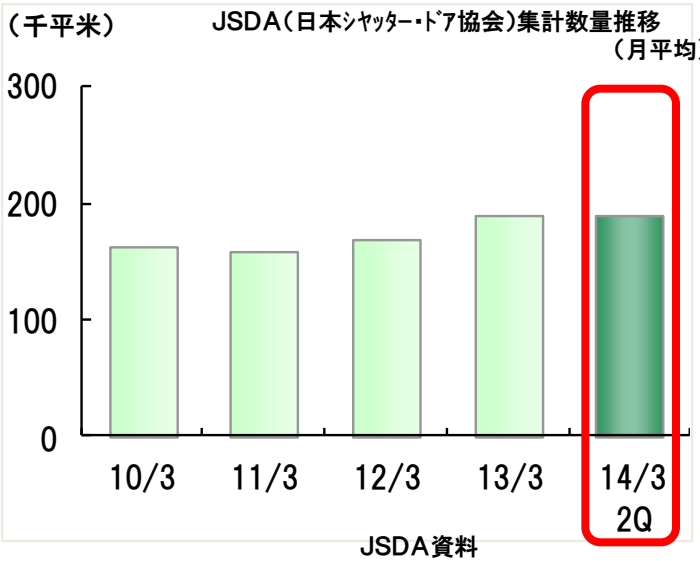
軽量シャッターの実績推移

TOYOShutter

売上高は前年同期比微減、シェアも若干縮小



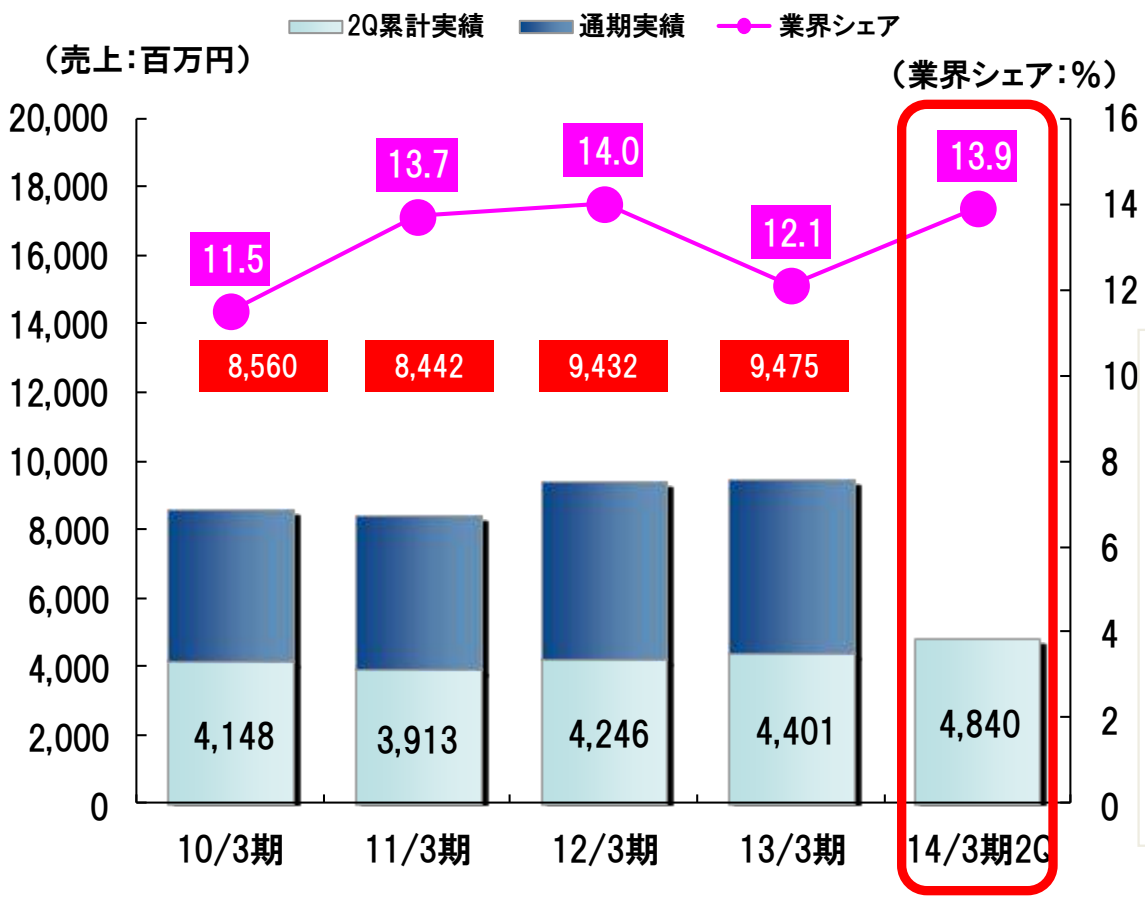




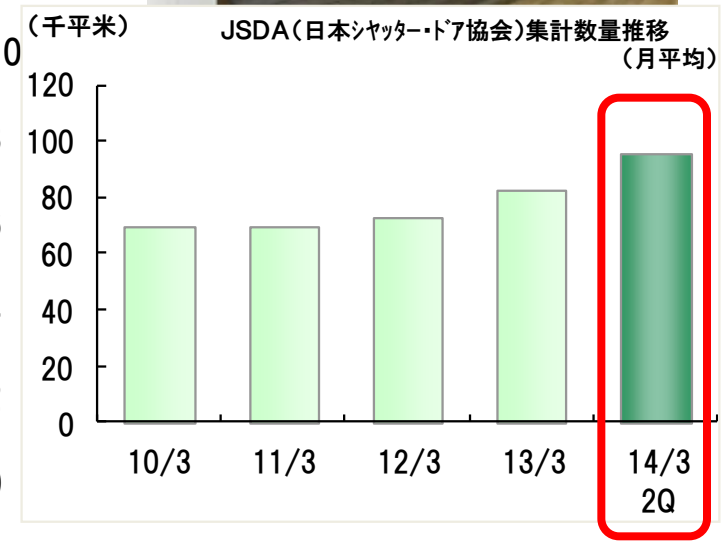
重量シャッターの実績推移

TOYOShutter

業界の伸びに連動してシェアもアップ





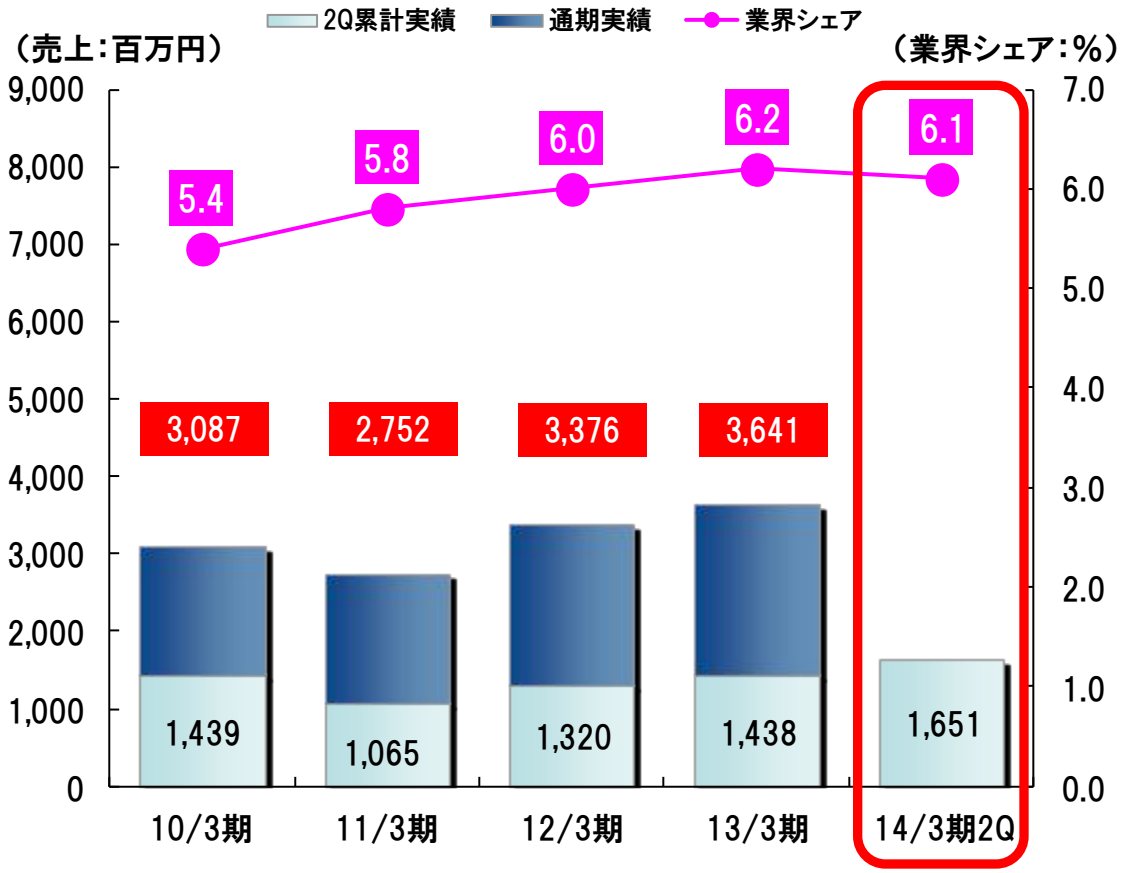


JSDA資料

スチールドアの実績推移

TOYO Shutter

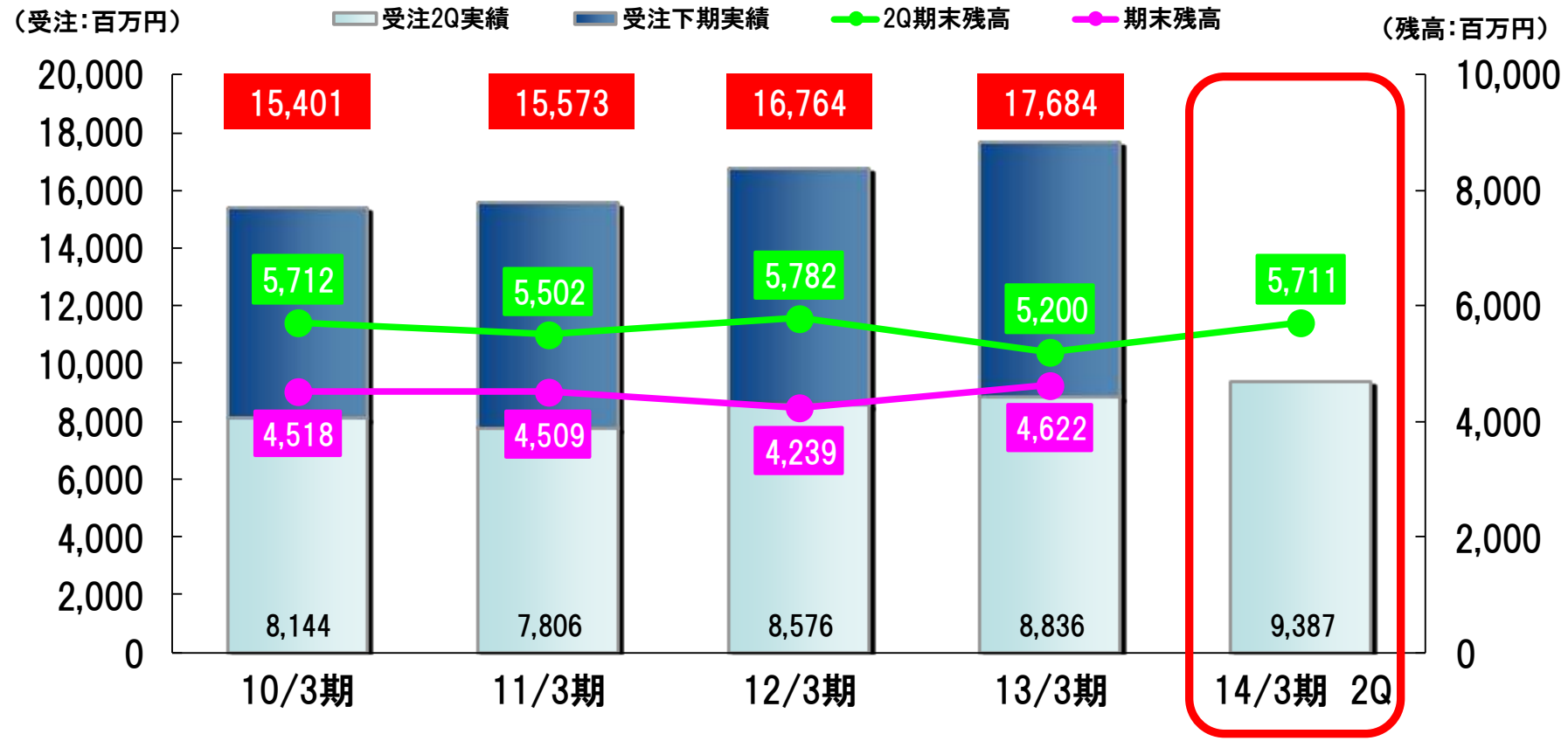
売上高は前期比14.8%増





受注実績・受注残高推移

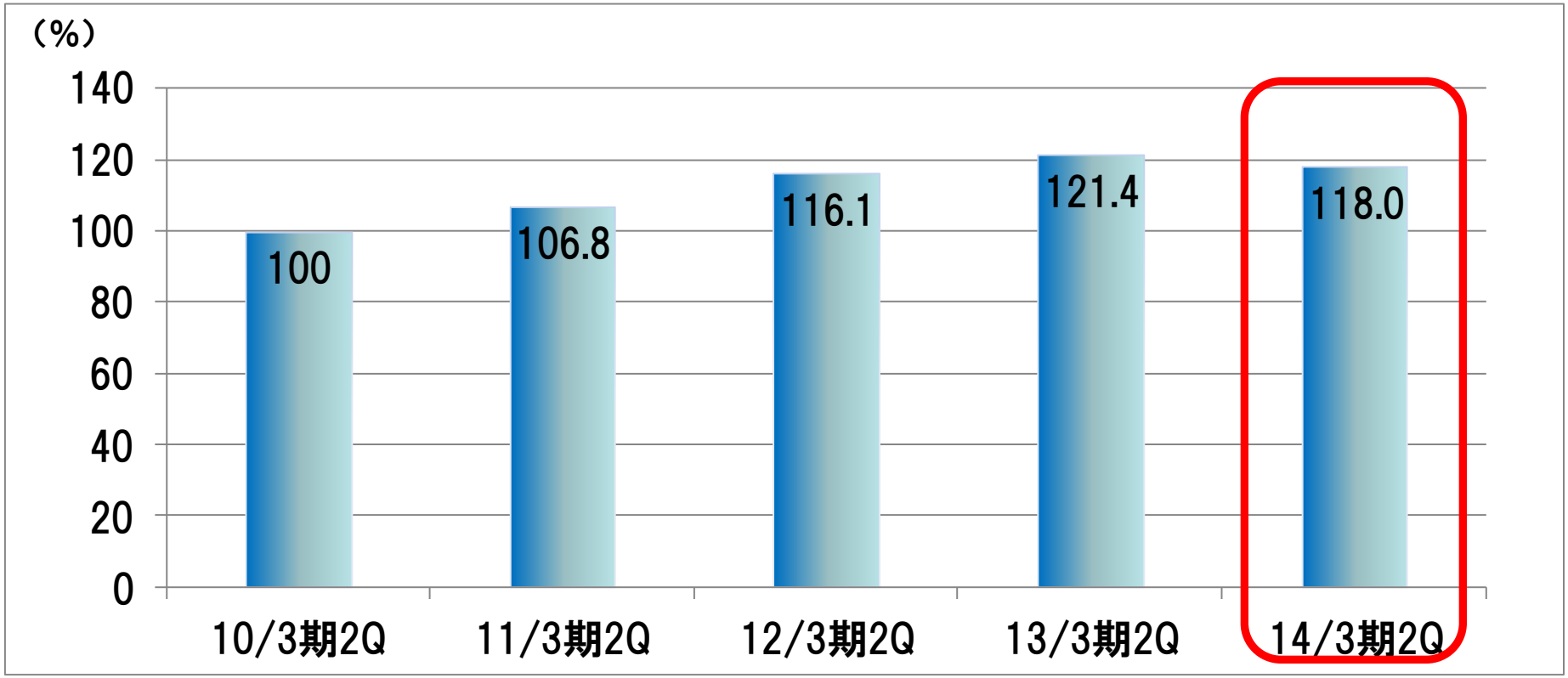
マーケット環境の好転に伴い受注も順調に改善傾向



＊10/3期以降の残高は比較上、従前の工事完成基準を適用しております。

メンテサービス事業の状況

前年同期比3.4ポイント減



＊10/3期2Qを100とした場合の売上高の推移。

2014年3月期第2四半期
キャッシュ・フロー計算書

営業活動CF　：　仕入債務減により減少
投資活動CF　：　業務効率化のための投資
財務活動CF　：　借入金圧縮および配当金支払い

（単位：百万円）

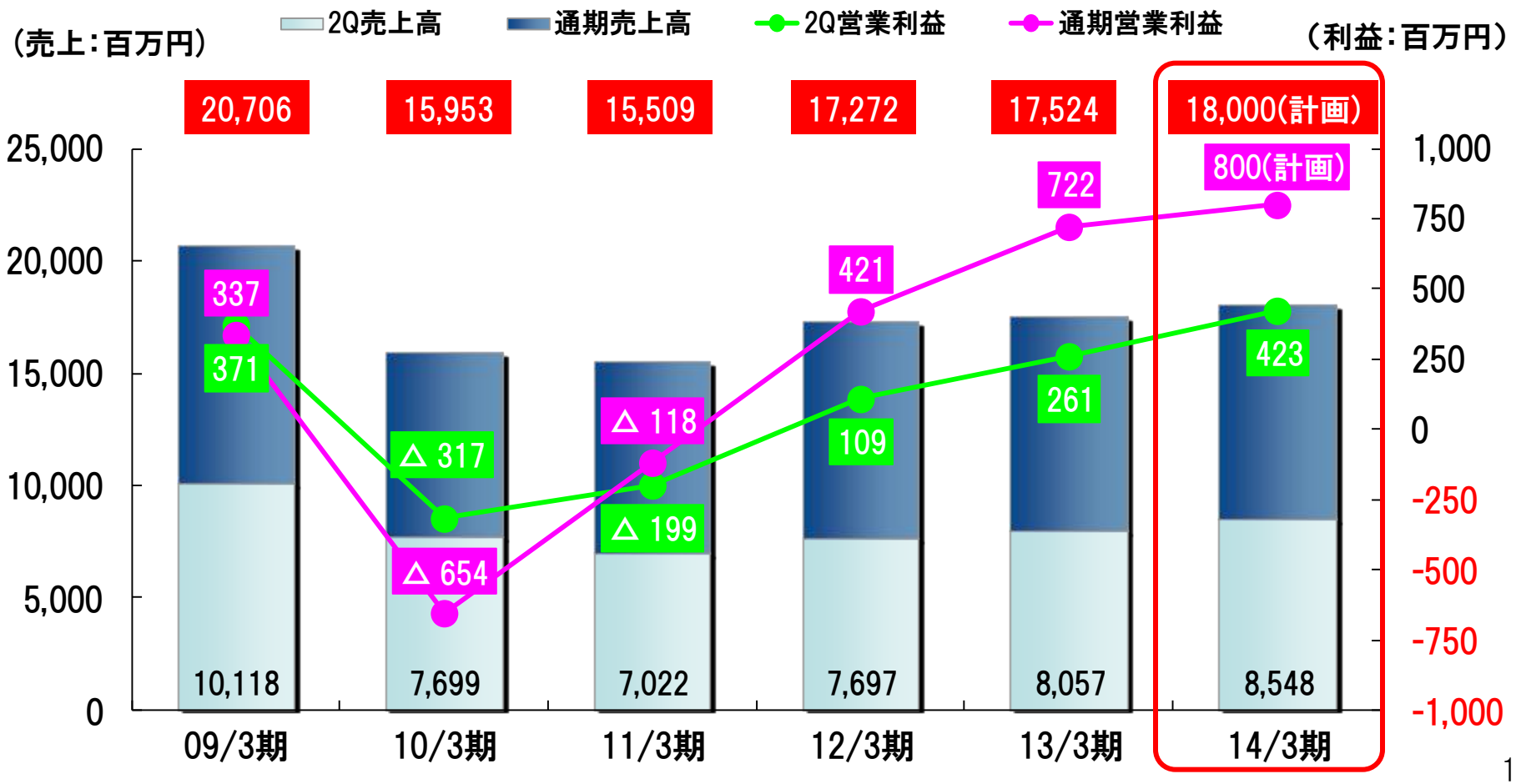
	13/3期2Q	14/3期2Q
期首現金・現金同等物残高	1,240	1,233
営業活動によるキャッシュ・フロー	300	△112
投資活動によるキャッシュ・フロー	△65	△102
フリーキャッシュ・フロー	235	△215
財務活動によるキャッシュ・フロー	△224	△326
期末現金・現金同等物残高	1,250	692

2014年3月期　業績見通し

連結業績推移

TOYO Shutter

14/3期下期以降、原材料等コストの上昇が懸念

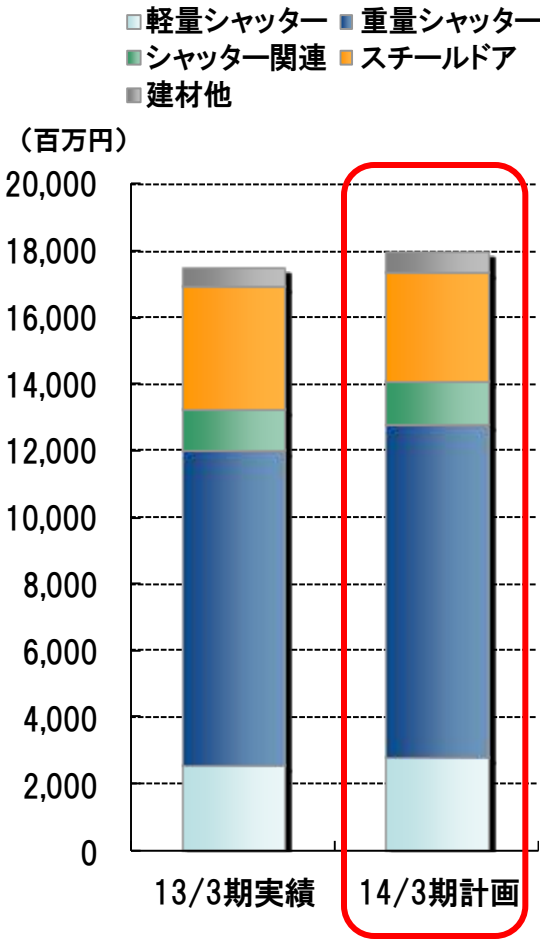


2014年3月期業績計画(売上内訳)

軽量シャッター、重量シャッターを継続強化

(単位:百万円)

	13/3期 実績	14/3期 計画	前期比 増減
売　上　高	17,524	18,000	2.7%
軽量シャッター	2,547	2,650	4.0%
重量シャッター	9,475	9,850	4.0%
シャッター関連	1,272	1,300	2.2%
スチールドア	3,641	3,600	△1.1%
建材他	587	600	2.2%
営　業　利　益	722	800	10.7%
営業利益率	4.1%	4.4%	―
経　常　利　益	566	700	23.6%
当期純利益	508	450	△11.5%

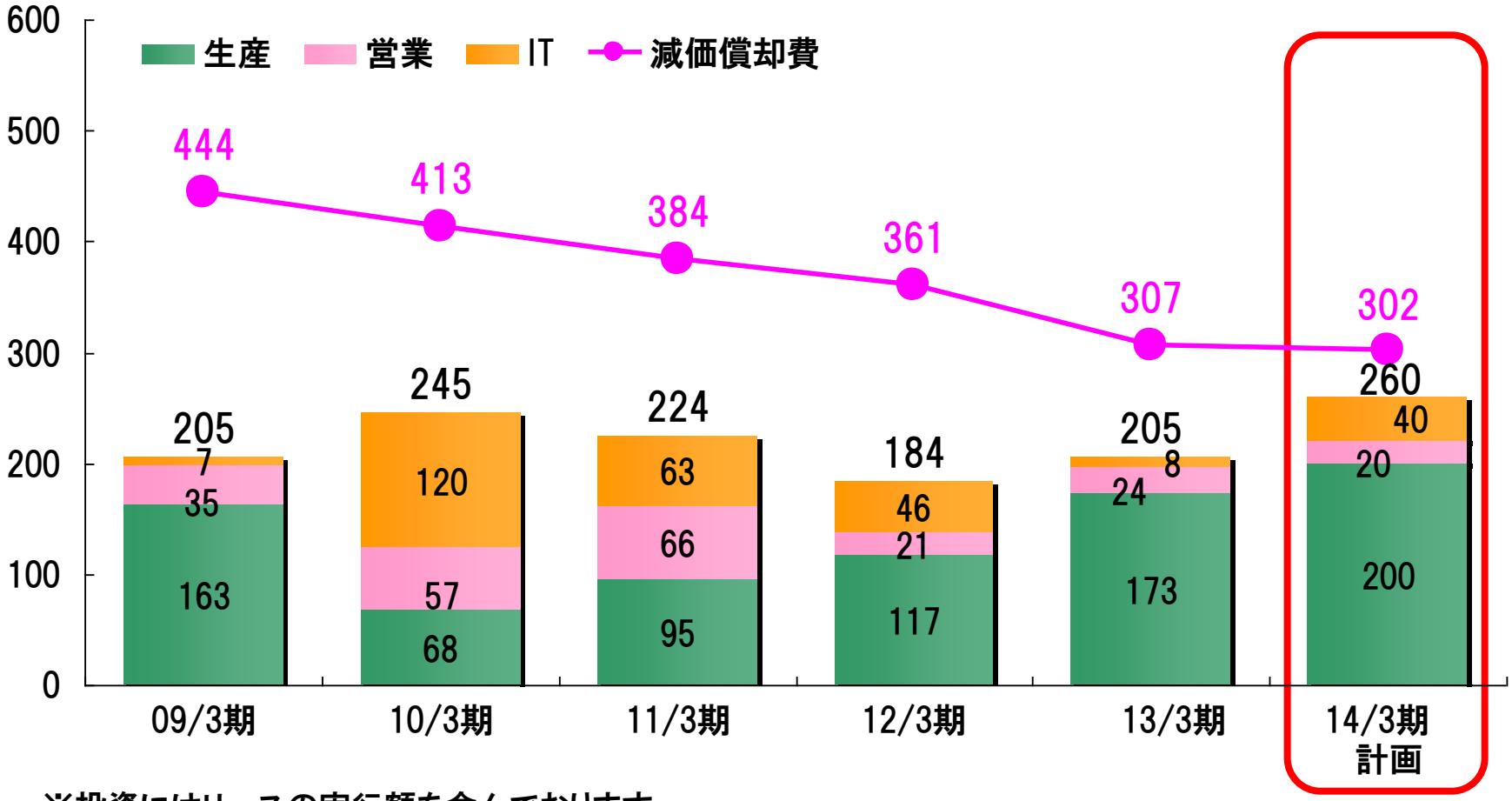


設備投資額・減価償却費の見通し

TOYO Shutter

生産性の改善を中心とした積極投資

（単位：百万円）

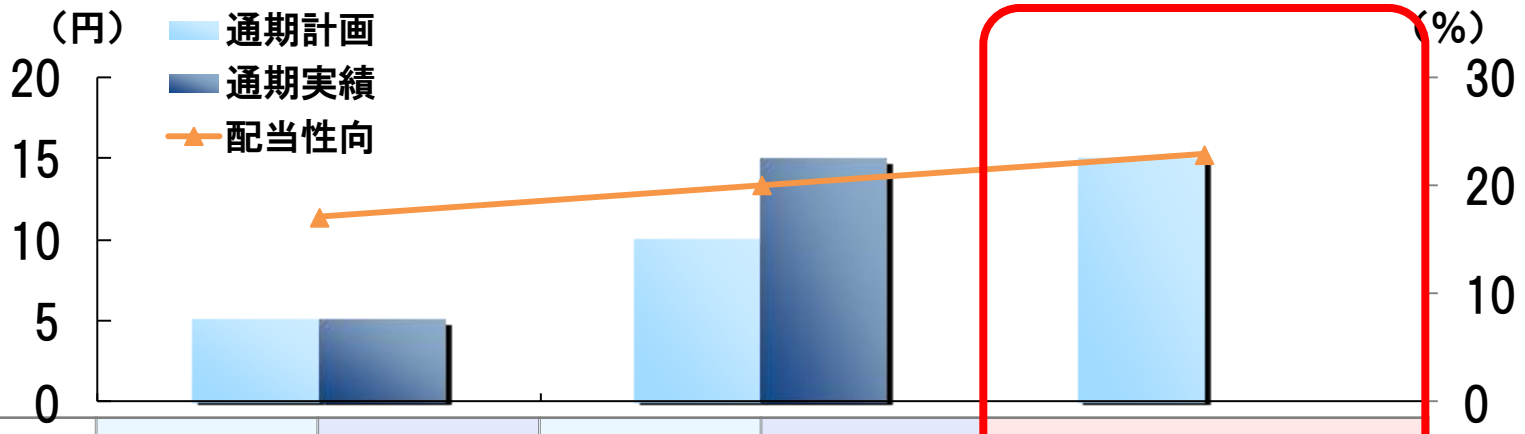


※投資にはリースの実行額を含んでおります。

配当について

前期は収益性改善により増配(年15円)、今期以降も安定的な配当を目指す

►設備投資や、研究開発投資に必要な内部留保の確保を踏まえた株主還元



	12/3期 (期初計画)	12/3期 実績	13/3期 (期初計画)	13/3期 実績	14/3期予定
通期	5円	5円	10円	15円	15円
配当性向	11.4%	17.1%	18.4%	20.1%	22.9%

今後の展望

中長期的な事業環境

TOYO Shutter

シャッター・ドア市場 ＝ 成熟市場

・都市社会インフラの成熟＋少子高齢化
・非住宅着工床面積は底打ち感、但しオリンピック効果で当面回復基調、
　尚、ピーク時ほどの回復は期待できず

引き続き安定した受注の確保

メンテサービスの強化

業務効率化によるコストの削減

収益性改善に注力

中期経営計画『JUMP UP 3』(3カ年)
(2013年3月期～2015年3月期)



今後も楽観を許されない経済環境下で、企業品質の向上を目指し、

安全・安心・快適・感動を提供し続けるとともに社会の進歩発展に貢献することを目標とし、

全社一丸となり新しい中期経営計画を推進。

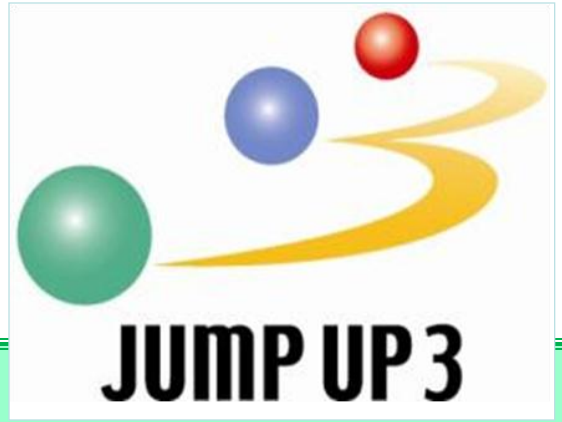
『JUMP UP 3』の基本方針

① 企業品質の向上を図り、シャッター・ドア・金物専業メーカーとしての地位確立を目指す。

② 常に、改善と効率化の意識を持ち、環境の変化に左右されない強固な収益基盤を構築する。

③ 働く人々が連携と対話を深め、充実感を持ち責任ある行動ができる、より強くて温かい集団を目指す。

『JUMP UP 3』の重点施策



(1) 主力製品のシャッターとスチールドアの安定的受注を確保し、収益の増強を図る。
(2) 営業人員の増強をおこない、ストックマーケットにおけるメンテ・修理部門に一層の経営資源を投入し、収益力の向上を図る。
(3) 研究開発に積極的に投資をおこない、市場ニーズに応えうる「ものづくり」に邁進する。
(4) TS－KAIZEN 運動を継続し、業務全般において業務品質の向上を追求する。
(5) 社員一人一人の役割期待を明確化し、教育指導を通じて、強い社員、強い組織、強い会社を実現する。
(6) コーポレートガバナンスの一層の強化を図る。

『JUMP UP 3』の経営指標(5/9修正)

TOYO Shutter

(単位:百万円)

	13/3期 実績	構成比	14/3期 計画	構成比	15/3期 計画	構成比
売上高	17,524 (17,000)	―	18,000 (17,500)	―	18,500 (18,000)	―
営業利益	722 (540)	4.1%	800 (600)	4.4%	900 (700)	4.9%
経常利益	566 (420)	3.2%	700 (480)	3.9%	800 (600)	4.3%
当期純利益	508 (360)	2.9%	450 (420)	2.5%	500 (480)	2.7%

※括弧内は当初計画

独ハーマン社グループとの業務・資本提携



独ハーマン社グループ

業務提携

資本提携19.07%

東洋シヤッター

JUMP UP 3

合弁会社
ハーマン・ジャパン

○出資比率：東洋シヤッター20%、ハーマン80%

○社外取締役1名を相互派遣

☆*継続的拡大を目指して長期的な取り組みを推進*

◆2011年8月より高速シートシャッター販売開始

◆2012年12月より製品のバリエーション追加

独ハーマン社グループとの業務・資本提携

TOYO Shutter

独ハーマン社グループの高速シートシャッター（バリエーションの充実）



V5015SEL
安全性と多彩な機能を持った
オールラウンドな標準タイプ（内部用）



V6030SEL
耐風圧に対応した外部用タイプ



6mの開口部で、
耐風圧に対応した外部用タイプ

参考資料
（東洋シヤッターの概要）

会社概要

関西を中心に発展してきた創業50余年の老舗シャッター・メーカー

商号	東洋シヤッター株式会社
設立	1955年9月10日
資本金	20億2,421万円
株式上場	市場第1部(東京証券取引所)(No.5936)
本店所在地	大阪市中央区南船場2丁目3番2号　南船場ハートビル12F
代表者	代表取締役社長　岡田　敏夫
従業員数	504名(2013年9月末連結)
事業所	2本社、9支店、1営業部、50営業所・ﾒﾝﾃｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子会社	南東洋シヤッター株式会社

沿　革

1955年　9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年　2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年　9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年　3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年　5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年　7月	大阪市中央区南船場に本社移転
2009年　2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2011年　2月	独ハーマン社グループと資本・業務提携契約締結
2012年　5月	中期3ヵ年計画「JUMP UP 3」を策定

免責事項

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。
これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。
実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2013年12月